

## 自文化中心主義を超えて 社会的正義の神経基盤

### [1] 組織

代表者：佐藤 徳（富山大学人間発達科学部）  
対応者：杉浦 元亮（東北大学加齢医学研究所）  
研究費：物件費6万3千円，旅費13万7千円

### [2] 研究経過

現在，世界が抱えている，環境問題，紛争問題，格差問題など，差し迫った課題は，国家，宗教，人種などの立場を超えた，問題の共通理解や対話を必要としている。しかし，人は，ともすれば，自らの文化を基準として他の文化を否定的に判断するという，いわゆる自文化中心主義に陥りがちであり，それが問題の共通理解や公平な解決を妨げている。本研究の目的は，自文化中心主義を超えた問題の公平な解決に関わる神経基盤を検討することである。しかし，fMRIを用いた神経基盤の検討を行うには，まずは，自文化中心主義を測定する実験パラダイムを開発する必要がある。そのうえで，自文化中心主義的なバイアスを低減させる実験手続きを開発する必要がある。本年度は，まず，その第一段階として，2つのパラダイムについてそれらが自文化中心主義を測定するパラダイムとして妥当かを検討した。

一つは道徳判断課題を用いたパラダイムである。これまでのfMRIを用いた道徳研究の多くでは，5人の鉄道作業員を救うために一人の鉄道作業員の命を犠牲にするかどうかといった倫理的なジレンマ課題が用いられている（e.g., Greene et al., 2001, 2004）。こうした研究に基づき，Greenらは，道徳判断の二過程理論を提起している。それによると，数人を救うために一人の人間を殺すという考えは，優勢なネガティブな感情反応を引き起こし，そのようなことは道徳的に許されないと否定的な意見を駆り立てる。と同時に，人は最大多数の最大幸福といった功利主義的な道徳推論も行う。ジレンマ課題のタイプによっては，数人を救うために一人の人間を殺すという行為に対して感情的な抵抗が少ない場合と特に抵抗が大きい場合とがあるが，前者のように特に優勢な感情反応がない場合は，そのまま最終的により多くの人間を助けるという功利主義的な判断がなされることになる。しかし，後者の場合のように，優勢な

感情反応と功利主義的な推論が競合する場合は，その優勢な感情反応に打ち克つため，付加的な認知的統制処理が必要となる。この二過程理論は，後者の場合感情的な処理に関わる部位が活動すること，また，後者の場合のようなより葛藤の大きい場面ほど，競合の検出に関わる前部帯状皮質や認知的統制処理に関わる前頭前野背外側部が活動すること，さらには，後者の場合，認知的負荷によって功利主義的な判断に要する反応時間が選択的に増加することなどによって支持されている（e.g., Greene et al., 2001, 2004, 2008）。

本研究では，この課題を用い，犠牲となる一人を日本人（内集団）または中国人（外集団）とし，数人を救うためにその一人の人間を犠牲にするのはどの程度悪いか，ならびに，その一人を犠牲にするかどうかを，日本人の協力者に尋ねた。なお，外集団を中国人としたのは，実施当時，領土問題を契機に両国間に緊張が見られたためである。具体的なシナリオは，「あなたは病院の深夜の警備員です。隣の建物の事故のせいで，きわめて有害なガスが病院の換気システムを通して立ち昇っています。ある病室には3人の患者がいます。別の病室には日本人の患者が一人いるだけです。もしあなたが何もしなければ，そのガスは3人の患者を収容している病室の中まで立ち昇り，彼らを殺してしまうでしょう。これらの患者の死を避けるには，スイッチを押して，ガスを3人の患者がいる部屋を迂回させるしかありません。この結果として，ガスは日本人の患者が一人いる病室に入り，この患者は死んでしまうでしょう。」といったものであり，下線部を条件により中国人と替え，「3人の患者の死を避けるためにそのスイッチを押すことは，どのくらい悪いこと」かを「0. 全く問題ない」から「9. 非常に悪い」までの10件法で，「あなたは，3人の患者の死を避けるためにそのスイッチを押しか」を「はい」か「いいえ」で回答させた。自文化中心主義的なバイアスが見られるならば，内集団の成員を犠牲にする場合により感情的な抵抗が大きく（より悪いと判断される），それゆえ，功利主義的な判断も比較的なされ難いと予測される。また，功利主義的な判断がなされるにしても，それにはより付加的な認知的統制処理が必要となるだろうと予

## 「様式3」

測される。

2 つめのパラダイムは感情体験の帰属に関わるものである。感情の中には、一般的に、人類特有のものと素朴に考えられているものと、そうでないものがある (e.g., Demoulin et al., 2004)。罪悪感など、二次感情と呼ばれる感情は前者に相当し、怒りなどの一次感情は後者に相当する。Leyens et al. (2001, 2003) は、調査対象者に内集団ならびに外集団の成員に特徴的に考えられる感情をリストから選ばせ、内集団の成員に対して、外集団の成員よりも、ポジティブ感情、ネガティブ感情ともにより多くの二次感情が選択されることを示している。同様な自文化中心的なバイアスはオキシトシンの摂取によって強められることが報告されている (De Dreu et al., 2011)。そこでは、一次感情に関してはオキシトシン接種の効果はなく、人間特有とされる二次感情においてのみ、オキシトシン接種により内集団と外集団の差 (内集団>外集団) が生じることが示されている。本研究では Demoulin et al. (2004) を参考に4つの一次感情と4つの二次感情を選定し、それらの感情を典型的な内集団ならびに外集団の成員がどの程度経験できると思うかを「1. まったくできない」から「5. 十分にできる」の5件法で回答させた。なお、ここでも外集団を実施時の国際情勢に鑑み中国人とした。

なお、研究打ち合わせは、平成24年5月、平成25年3月の計2回行い、平成24年12月から平成25年1月下旬にかけて調査を行った。

### [3] 成果

#### (3-1) 研究成果

87名の大学生を対象に道徳判断課題を実施した。うち、44名を内集団群、43名を外集団群に無作為に割り当てた。シナリオは10場面からなり、うち、5場面が道徳判断場面、5場面が非道徳判断場面であった。非道徳判断の例は、「あなたは自分のためにブラウニーを焼こうと決心しました。あなたは料理本を開いて、ブラウニーのレシピを見つけます。レシピには刻んだクルミ1カップが必要とあります。あなたはクルミが好きではなく、マカダミアナッツが好きです。たまたま両方のナッツがあります。クルミを食べるのを避けるために、クルミの代わりにマカダミアナッツを入れるのは、どのくらい悪いことでしょうか?」といったものであった。独立サンプルのt検定を行った結果、道徳判断場面、非道徳判断場面ともに、悪いと思うかどうかの道徳感情、犠牲にするかか意思決定ともに、有意な差が見られなかった。

感情体験判断については、59名の大学生が回答し

た。感情 (一次感情・二次感情) × 集団 (内集団・外集団) の2要因の繰り返しのある分散分析の結果、感情の主効果、集団の主効果、両者の交互作用ともに有意であった。感情の主効果は、一次感情の方が二次感情よりも多く経験される (と判断される) というものであり、集団の主効果は内集団の成員の方が外集団の成員よりも多くの感情を体験する (と判断される) というものだった。交互作用は、一次感情においては、内集団、外集団の成員ともに同程度経験すると判断されていたが、二次感情については、有意に内集団の成員の方が外集団の成員よりも多く体験すると判断されていることによるものだった。

以上、道徳判断課題では、少なくとも本研究の限りでは、自文化中心主義的なバイアスは見られなかった。しかし、功利主義的な意思決定に要する反応時間など、別の指標ではバイアスが見られる可能性もある。今後の検討が必要である。他方、感情体験判断については、自文化中心主義的なバイアスが見られた。すなわち、そこでは、内集団の成員の方が外集団の成員よりも人間特有とされる二次感情を体験すると判断されていた。一次感情においては、そのような差が見られず、本結果は、内集団の成員は外集団の成員よりもより人間的であると判断するという自文化中心主義的なバイアスを示していると考えられる。これは Leyens et al. (2001, 2003) と一致する結果である。しかし、本研究での項目数は少なく、今後項目を増やして再検討を行う必要がある。

#### (3-2) 波及効果と発展性など

自文化中心主義的なバイアスを測定する妥当性の高い測度が開発されれば、そうしたバイアスを低減させるための介入法の検討も可能となる。調査研究では、世界中の人々との一体感が強い個人は質問紙によって測定される自文化中心主義的傾向が低いことが報告されている (McFarland et al., 2012)。また、マイノリティに対する偏見を扱ったものではあるが、健康を保つのは何のためか (why) を考えるとといった抽象的な思考を行うと、健康を保つにはどうするか (how) を考える具体的な思考を行うのとは対照的に、マイノリティに対する偏見が、特に保守的な人で低減することが示されている (Luguri et al., 2012)。今後、妥当な測度を用いた、有効な介入方法の実証的な探索が必要である。

### [4] 成果資料

平成24年度の時点では成果発表はおこなっていない。さらに検討を重ね、次年度以降に発表する予定である。